

## 利尻島国保中央病院



北海道の最北の地に位置する利尻島は、周囲約52Km・人口約5400人が住む漁業と観光で潤う夢の浮島です。漁業に携わる多くの住民の方は、とてもパワフルで、80・90歳になってもとても元気よく、ふれあう折にはたくさんのエネルギーを頂いております。また観光シーズンには、豪華客船の来島やツアー旅行、バイク・キャンピングカーで長期滞在をしたり、霊峰利尻富士を目指して登山者の多くの方が来島したりします。

利尻昆布の採取時期には、町民の多くや学生・本州からのバイト者が昆布やウニ採取の手伝いに関わり島全体一丸となって取り組んでいます。また北の地に位置するにも関わらず、多少風は強いですが、温暖で雪が少なく思いのほか住みやすい土地柄です。又、フェリー・飛行機と中央へのアクセスも便利になり、最近では海山を求めて移住される方も増えて来ています。



利尻町マスコットキャラクター  
”リシリン”



利尻町元気な三人衆リシリボーイズ

長年使用をしてきた Activion16 が管球劣化にて検査に支障を及ぼす事が多くなり、かねてから更新希望をしていた Aquilion Lightning Helios Edition を7月下旬に導入しました。稼働し始めてまだ間もないですが使用報告をしたいと思います。

当院に赴任をして2年目に入り、前技師長の木村先生からの申し送りの「安心・安全な検査で思いやりのある質の高い画像をめざして」を継承して島の地域医療に日々取り組んでいます。

少子高齢化が進む昨今、島民の年齢も年々高齢化が進み検査を受ける患者の大半を年配の方で占めている傾向にあり、慢性疾患を多く抱え体を気遣っての生活は、受診の際に検査対象も多岐にわたっています。

島という特性上、患者搬送にはフェリー・ヘリコプターが必須で、搬送手段・システムが整備されていますが天候状況・搬送状況等により制限が加わり、患者予後にも影響を及ぼす事もあります。更に当院で行える医療提供にも限りがある中で、救急対応・早期受診対応でのCT装置の位置付けが大きく係わってくれる事を期待しています。



検査室内



操作室内

また専門医療を島外で受けて退院後のケアを島で継続して行うケースも多く、医療資源限りある中でのCT装置の導入は、患者・地域にとって期待が大きいものであると感じております。特に、高齢者が大半を占める環境の中で、ガントリ口径の大きさ・寝台横スライドでの撮影体位保持や位置決め of 優位性、息止めがスムーズに出来ない患者に対しての短時間撮影、複数・広範囲撮影もストレスなく対応出来る管球容量、アーチファクト軽減ソフト等による良質な画像提供が出来る装置としての位置付けは、患者はもとよりスタッフにとっても安心・安全な検査提供が出来る礎になっていると感じています。

今回は、ザイオ2のワークステーション、デュアルショットインジ

ェクター、炭酸ガス送気装置を同時に入れ、検査内容の充実を図る目的とより質の高い画像提供が出来る様にとしました。まだまだ、動き出して間もないですが、メーカーの協力を元に検査体制強化の構築を図って行きたいと思っています。